

志賀原子力発電所2号機 高圧タービン車室内での粒状の金属の発見について

平成18年9月28日
北陸電力株式会社

当社は、志賀原子力発電所2号機（改良型沸騰水型、定格電気出力135万8千キロワット、7月5日からタービン点検のため停止中）において、低圧タービンの羽根の損傷を踏まえ、念のため高圧タービンについても9月20日より自主的に点検作業を行っておりました。

9月27日9時30分頃、高圧タービン車室の内部を確認したところ、車室下部に直径約2～3mmの粒状の金属（約900個、総重量約80g）を発見しました。

また、高圧タービンの羽根を目視で確認したところ、粒状の金属が当たったと思われる微小な痕跡がありました。

今後、粒状の金属が混入した原因及び影響範囲の調査を行うとともに、高圧タービンの羽根の詳細点検を実施してまいります。

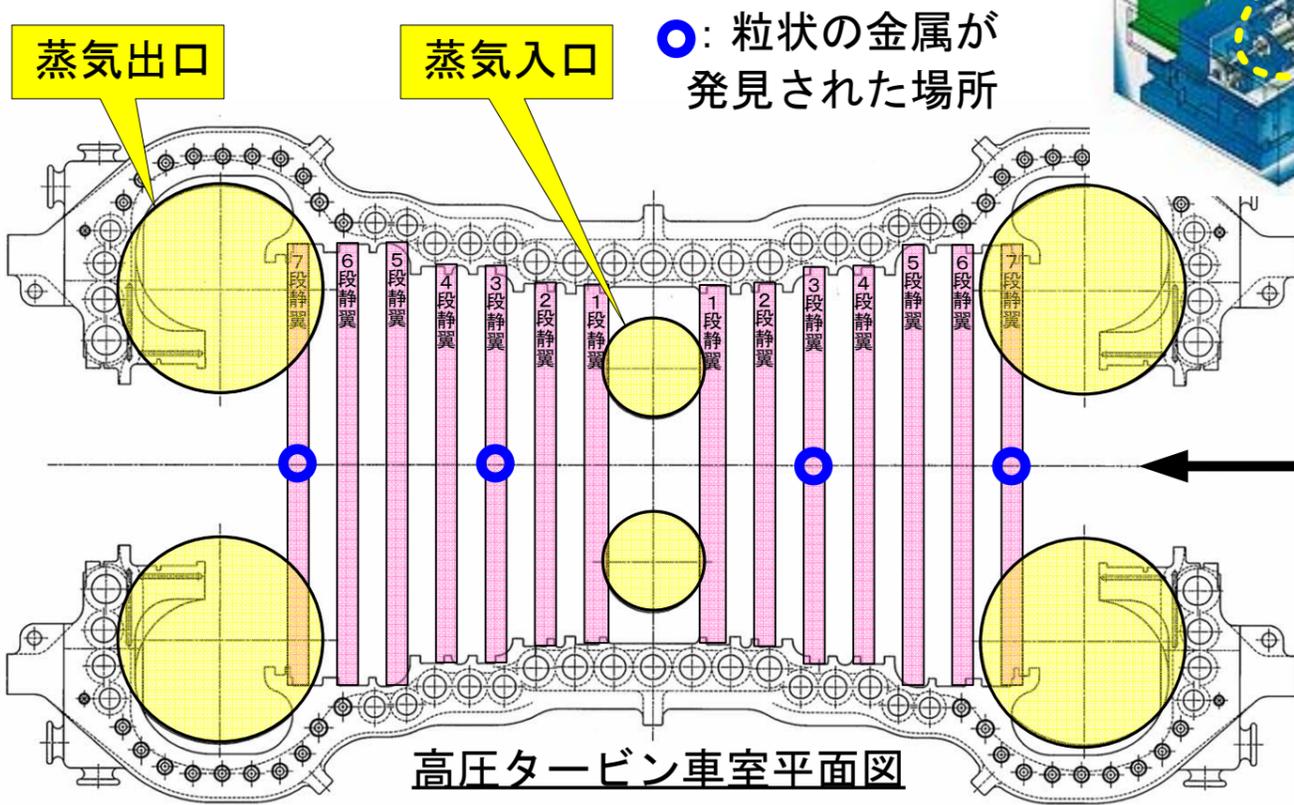
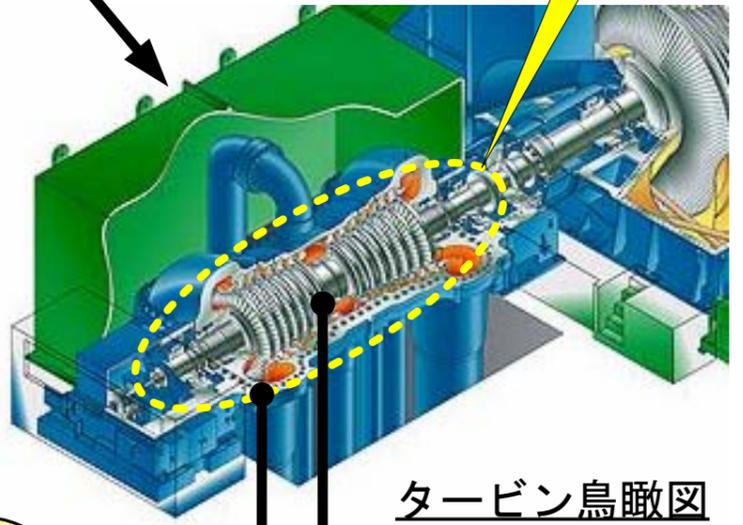
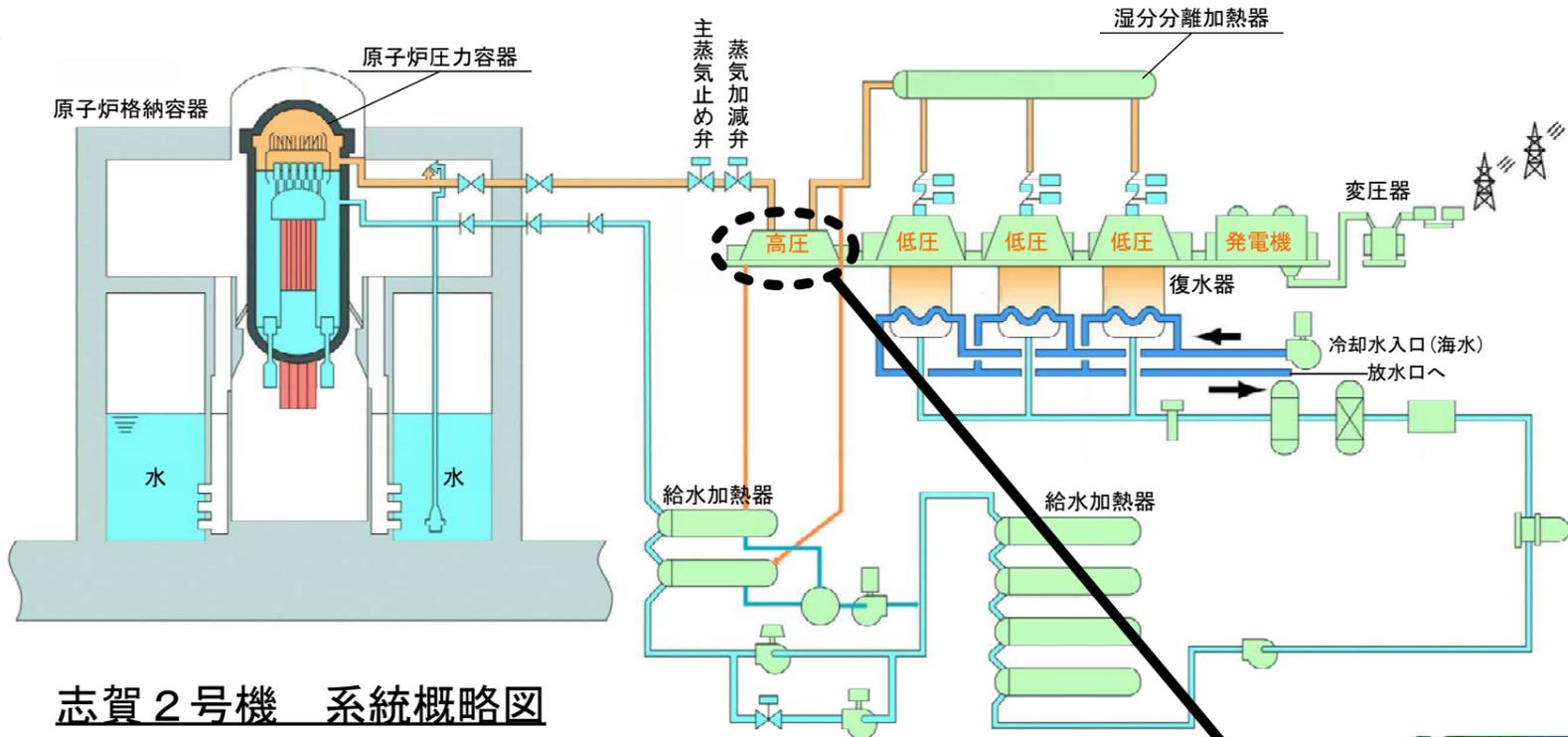
本事象については、石川県及び志賀町と締結している連絡基準に係る覚書に基づき当該自治体へ連絡しています。

なお、外部への放射能の影響はありません。

以 上

添付資料：高圧タービン車室内で発見された粒状の金属について

高圧タービン車室内で発見された粒状の金属について



確認された粒状の金属 (直径約2~3mm)

第1段動翼 (表面に微小な痕跡あり)